

午後一時 吉田清造氏、矢野正信氏、田中嘉藤治氏、電気工場事務所に岡村氏を訪ふ。

吉田氏 岡村さん昨日御願ひしし置きた事は如何でありませうか、皆待て居りませうか。

岡村氏 僕は昨日もおかしあを通り君達は囑願書の積りが知らんが僕は参考書があるから

君達の返事をする迄考へて居らん。

吉田氏 それおれは夕方近う御考へ出来ませんでせうか。

岡村氏 考へて見よう。

午後三時 電気工 吉田氏、山内氏、相原氏、再び岡村氏を訪ふ。

岡村氏に致せる囑願書(写)

私達に刻々と迫る生活難の叫びの起因は年経る毎に増すものである。何故をれば一例を挙げると今より数年前は頼み人其時とは無事な下宿屋生活であったが一年の後には有妻となつて一つの家庭を作つた。二年目には子供が少く来た。三年目には妻は妊娠二つ三つある兒は病身として、数年前の収入其儘ではやりきれない。

之れが導火線となつて叫びの一因である。

私達が数年前には素人であった。赤柱に登つて架線のみには入り居つたが今では数ヶ年の労働が可なり一級に目を通す事が出来た。

そこで所謂自己に立派な技術を獲得して貰つた。即ち幸福があるが其反面工場へ付しての生産能率よりも多大な増進を共に居る。自ら不構工場はとらして私達の給料を数年前も今も同じに使ふか？

こゝに怠惰と不平が出来る。叫びの一因に加ふる。もう一つある。怠惰や不平。端々で史々重なる一日を終つて居る。寂しい。

仕事と不満足は何れも私達は貰つた。即ち王冠の安定を計つて下さい。時代は鑑みし。之れ叫びの一因である。

之に依つて私達同志間に積年の宿望は無聲の裡に昇給問題の「リーゾテンス」が起きた。

其問題の主眼は二円以下の薄給者に與へて下さい。如右の事情を訴へて茲